

福中通信2021

11月号



令和3年 11月1日
発行責任者 市瀬 佐代

○挑戦すること

10月18日は、市駅伝大会でした。男子2チーム女子1チームが出場しました。ベスト8入りの目標を男子Aチームが達成し、6位になりました。駅伝大会に参加した22人が、毎朝の練習に精一杯取り組んだ成果だと思います。中でも、3年生9人全員が選手として出場し、一生懸命走ったのは素晴らしいことでした。3年生の中には、走ることが得意ではなかった人がいるかもしれません。けれど、クラス全員で練習を積み重ね、大会に出場できたのは、とても価値あることだと思います。

駅伝だけでなく、福井中学校にはたくさんの挑戦する場があります。授業の中で、学校行事で、部活動で、たくさん挑戦してください。文化祭や人権劇では、表現したりメッセージを伝えたりする挑戦ができます。どんどん挑戦して自分を高めてください。

○市新人戦結果

野球部・・・優勝。素晴らしい成果を収めました。おめでとうございます。
テニス部女子・・・団体戦3位。準決勝戦2-1で接戦でした。個人戦・・・1ペアがベスト6、11月3日県テニス祭出場
テニス部男子・・・団体戦1回戦敗退。
個人戦・・・3回戦敗退



○ミニ運動会

10月14日ミニ運動会が行われ、紅白に分かれて競い合いました。全員が「ラジオ体操」から「全校リレー」までの8種目に出場しました。今年は「福中ジャンプ」が新たに種目に加わり、緊張の中で跳んだ後、選手、観客ともに回数を数え一体感を味わいました。



【大玉運び】



【福中ジャンプ】



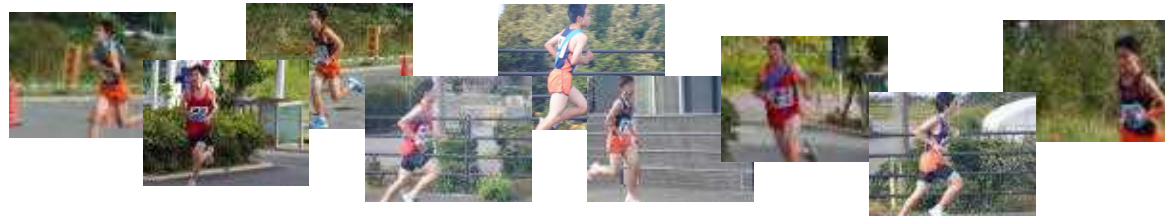
【玉入れ】



【慕進!全校リレー】

○市駅伝大会

男子2チーム、女子1チーム、3チームが出場し、粘り強く走ることができました。毎朝の練習に送り出してくださっているご家庭のご協力に心より感謝いたします。



○福田浩志先生から長谷川静先生へ

後期からの長谷川静先生の復帰に伴い、前期終業式の日、福田浩志先生のお別れ会が行われました。福田先生には、2年余り大変お世話になりました。後期からは学びサポーターとして週に2回、授業のサポーターをしていただきます。



長谷川 静先生のご挨拶

1・2年生の皆さん初めまして。3年生の皆さんお久しぶりです。

家庭科を担当します。モノづくりやモノと人との関わりについて一緒に学びましょう。よろしくお願いします。

○進学説明会

10月21日の進学説明会では、7校の阿南・那賀・小松島地域の高等学校、高専の先生方が学校説明をしてくださいました。3年生は進路決定に向けて一生懸命に聞いていました。



○交流学习



伊島中学校と今年度最後の交流学习をしました。伊島中の3年生男子1名が加わり、国語では百人一首、数学では相似比、英語ではスパトレ、保健体育ではフットサルなどの学習に意欲的に取り組みました。



○スパトレ

英語科では、後期からスパトレ（オンラインで外国人トレーナーと1対1のトレーニングを実施する学習）をしています。週に1回程度外国人トレーナーと実際に会話することで、一人一人の英語でのコミュニケーション能力を高めることを目標にしています。

○ひまわり号



人権・いじめ防止委員会
作成ポスター

月に1度、昼休みに来校してくれます。朝の全校読書、家庭読書のための本を各学年で選んでいます。ワークルームには、図書館サポーターの先生が季節に合わせた掲示物と本を紹介してくれています。今月はハロウィンでした。

*裏面には、「11・12月の行事予定」「全国中学校人権作文コンテストでの受賞作品」を掲載しています。どうぞご覧下さい。



1 1月の行事予定

- 1日(月)振替休業日(10月31日)
- 3日(水)文化の日
県ソフトテニス祭
県卓球新人大会女子シングルス
県中新人軟式野球大会
- 4日(木)S C来校ふれあい子ども会
- 5日(金)3年生修学旅行代替バス遠足・図書館サポーター
- 6日(土)人権劇上演
- 7日(日)家庭人権学習の日
県中新人軟式野球大会
- 8日(月)阿南科学センター理科授業(3年生)
- 11日(木)1年食育パワーアップ授業
S C来校

1 2月の行事予定

- 1日(水)小学校出前授業
- 4日(土)授業参観・人権講話・リサイクル品回収
- 8日(水)～10日(金)3年期末テスト

- 12日(金)振替休業日(11月6日)
- 13日(土)県中卓球新人大会男子シングルス
- 14日(日)県中駅伝大会
- 17日(水)第2回基礎学力テスト
- 18日(木)研究授業 ふれあい子ども会
- 19日(金)学校安全の日
図書館サポーター
- 20日(土)県中新人軟式野球大会
- 21日(日)県中新人軟式野球大会
- 22日(月)心の健康に関する授業
- 23日(火)勤労感謝の日
- 25日(木)市統一大会・ブロック人権
S C来校
- 26日(金)図書館サポーター

- 9日(木)～10日(金)1・2年後期中間
- 15日(金)バス遠足
- 20日(月)～22日(水)三者面談
- 24日(金)冬季休業日開始

思いやりのバトン

法務副大臣 賞

東京都 小金井市立南中学校 3年

安齋 さくら (あんざい さくら)

ある日の夕方、私は奇妙な光景に出会いました。駅の改札口の前で、若い女性が4人、縦一列になり前の人の肩をつかんでつながってじっとしているのです。帰宅ラッシュの人混みの中、まるで電車ごっこをしているかのような女性たち。近くまで来て、私はその理由がわかりました。彼女たちは、白杖を持っていました。視覚障害のある方たちだったのです。

一緒にいた母が彼女たちに駆け寄り、声をかけました。

「大丈夫ですか。何かお困りでしたら、お手伝いします。」

母の声に反応して、4人が一斉にこちらに顔を向けました。

「お願いします。西武線と中央線、二つの改札があって、どちらに行けばいいのかわからなくなってしまったのです。」

母は、二つの路線のそれぞれの改札横の窓口に彼女たちを連れて行き、駅員さんにサポートをお願いしました。別れ際に、彼女たちが母の手を握って何度もお礼を言っていたのが印象的でした。

帰り道、私はずっとその光景を思い出していました。そして、私が「奇妙」だと感じた理由は、電車ごっこのような女性たちの姿だけではなく、彼女たちを目にしていながら何事もないように通り過ぎていく人々の様子にもあったことに気がきました。彼女たちの周りには、携帯電話をいじりながら待ち合わせ

をしているような人も大勢いました。しかし、まるで彼女たちが存在していないかのように誰もが無関心でした。母が声をかけるまで、一体どれほどの時間を彼女たちはあの場所で立ちすくんでいたのでしょうか。もし自分だったら……と、私は目を閉じて想像してみても怖くなり、そして悲しくなりました。

母が、白杖を頭上に高く掲げている人がいたら、それはSOSのサインだと教えてくれました。しかし、彼女たちは誰も白杖を掲げていませんでした。調べてみると、そのサインは、視覚障害者の方たちですらまだ知らない人が多い、ということがわかりました。また、SOSのつもりで白杖を掲げたが、誰も声をかけてくれず悲しかった、という体験談も読みました。サインが世間に周知されることはもちろん重要です。しかし、それよりも、「誰かを気遣う気持ち」が広まってほしいと思いました。「困っていないかな」「大丈夫かな」、思いやりをもって気遣うことができれば、サインがなくても助けになれるのです。

「バリア(障壁)フリー」は、様々な場所で進められていることがわかります。段差をなくす、電光掲示板を設置する、音声案内を流す、など、物理的なバリアは取り除かれつつあります。しかし、最も大きなバリアは、私たちの心にあるのではないのでしょうか。困っている人に気付いても、自分には関係ないと思ったり、誰か他の人が助けるだろうと人任せにしたり、どうしたらいいかわからないからと見て見ぬふりをしたり。「無理解」、「無関心」というバリアがなくなれば、私が駅で体験したような出来事は起こらないはずでは、そのバリアを取り除くために必要なのは何でしょうか。私は、「想像力」と「勇気」だと思います。目を閉じて、初めて来た駅で人混みの中立っている自分を想像してみてください。とても不安で、「誰か助けて」と思うのではないのでしょうか。想像力を働かせば、困っている人が求めていることに気付くことができると思います。そして、少しの「勇気」を出して、声をかければいいのです。

心のバリアフリーが実現できれば、その他のどんなバリアも乗り越えられると思います。

私の住む小金井市には「障がいのある人もない人も共に学び共に生きる社会を目指す小金井市条例」があります。その中に、「共生社会」という用語の定義が次のように書かれています。

『共生社会 差別を解消し、障がい者と障がい者でない者とが分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、地域の中で共に手を取り合い安心して暮らすことのできる社会をいう。』

私たち一人ひとりの意識と思いやりの心が、社会を変えていくのだと思いました。私も母のように、困った人を見かけたらためらわず声をかけて手助けしようと強く思いました。

駅で、視覚障害のある女性たちを見送った後、母が言いました。

「思いやりのあるバトンがつながるといいね。」

彼女たちが家に着くまでの間、どうか彼女たちに優しく手を差しのべる人が現れますように。私もそう祈りました。

「第39回(令和元年度)全国中学校人権作文コンテスト受賞作品」